

長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂上聖端遺跡発掘調査報告書

2012.12

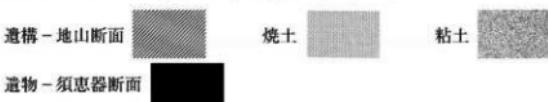
エフピー介護サービス株式会社
佐久市教育委員会

例　　言

- 1 本書はエフピー・介護サービス株式会社 代表取締役 柳澤 秀樹による平成23年度本社及び福祉用具メントナントス物流センター建設事業に伴う、長土呂遺跡群 上聖端遺跡IIの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市長土呂159-2 エフピー・介護サービス株式会社 代表取締役 柳澤 秀樹
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 長土呂遺跡群 上聖端遺跡II (NNK II)
佐久市長土呂159-1、159-2、159-3番地
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。
H - 堅穴住居址 F - 掘立柱建物址 M - 溝状遺構 P - ピット
- 2 スクリーントーンの表示は以下の通りである。



- 3 掘図の縮尺は以下の通りである。
遺構 - 堅穴住居址・掘立柱建物址・溝状遺構・ピット 1/80
遺物 - 上器・石器・鉄製品 1/4
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 6 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。

目　　次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 立地と経過及び周辺遺跡	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	2
第4節 発見された遺構と遺物	3
第Ⅱ章 遺跡の環境	3
第1節 自然環境	3
第2節 基本層序	3
第Ⅲ章 遺構と遺物	5
第1節 堅穴住居址 (H)	5
第2節 掘立柱建物址 (F)	10
第3節 溝状遺構 (M)	14
第4節 ピット (P)	16

写真図版

抄録

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過及び周辺遺跡

長土呂遺跡群は、浅間山の麓から放射状に広がる浸食谷に挟まれた細長い台地上（田切り地形）に展開する縄文時代から中世に至る幅広い時期の複合遺跡で、標高は705m～760mを測る。

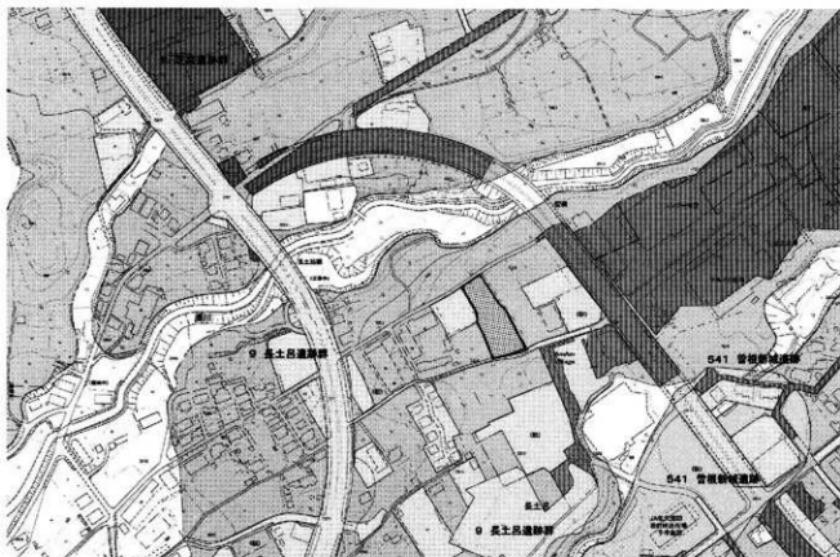
今回調査対象地となった上聖端遺跡Ⅱは、南西方向に向かって緩やかに傾斜する田切り地形の台地上に位置する。標高は733m内外を測る。

遺跡の周辺地域では、1993年3月の上信越自動車道佐久インターチェンジ開通前後から、道路建設・流通団地造成・店舗建設など開発が進み、発掘調査も数多く行われている。代表的な遺跡としては、今回調査地域の北東で流通団地造成に伴い聖原遺跡の発掘調査が平成元年～平成7年にかけて実施され、古墳時代から平安時代を中心とした住居址が900軒以上調査されている。

今回、エフピー介護サービス株式会社により本社及び福祉用具メンテナンス物流センターが建設されることとなり、平成23年7月6日から7月7日にかけて試掘調査を実施した。その結果、住居址・溝状遺構・ピットが発見されたことから、開発主体者と協議を重ね、遺跡が破壊される建物部分について、記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施した。なお、建物建設地域以外で発見された遺構については埋土保存とした。



長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ位置図 (1:50,000)



調査区位置図 (1:5,000)

第2節 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	土屋 盛夫
事務局	社会教育部長	伊藤 明弘	
	社会教育部次長	藤牧 浩	(平成23年度)
	文化財課長	吉澤 隆	
	文化財調査係長	三石 宗一	
文化財調査係専門員	林 幸彦	(平成23年度)	須藤 隆司 小林 真寿
	羽田野卓也	富沢 一明 上原 学	
文化財調査係	並木 節子	神津 一明	(平成23年10月～)
	井出 泰章	(平成23年4～9月)	久保浩一郎 (平成24年度)
嘱託職員	林 幸彦	(平成24年度)	
調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子	

調査担当者

上原 学

調査員

浅沼勝男 江原富子 小幡弘子 風間敏 犬野小百合 木内勇
小井戸秀元 小林百合子 清水澄生 鎌沢三男 土屋武士
中嶋フクジ 比田井久美子 日向昭次 武者幸彦 渡辺長子
渡辺学

第3節 調査日誌

- 平成23年(2011) 6月16日 土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出。(93条書類)
 7月6・7日 試掘調査。(住居址・溝状遺構・ビット発見)
 7月21日～ 文化財保護協議。(遺跡の破壊される建物部分の発掘調査を実施)
 9月 6日 平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。
 9月12日 発掘調査開始。重機による表土剥ぎ。
 9月14日～30日 遺構検出・遺構の掘り下げ。図面作成・写真撮影等を行う。機材撤収。
 10月 3日～ 報告書作成作業。

		遺物 = 遺物洗浄・注記作業・接合復元作業・実測図作成・トレース・写真撮影・図版作成。
		遺構 = 図面修正・写真整理・トレース・図版作成・原稿作成。
平成24年 (2012) 1月18日		平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約の変更契約。
2月29日		平成23年度発掘調査作業完了。
10月 1日		平成24年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。
10月		報告書入稿。
12月		第211集 報告書刊行。

第4節 発見された遺構と遺物

遺構	堅穴住居址	3軒 奈良時代	遺物	土師器(壺・甕)
	掘立柱建物址	8棟 奈良時代		須恵器(壺・高台付壺・甕・蓋)
	溝状遺構	3条 奈良時代以前		石器(すり石・敲石・みがき石)
	ピット			鉄製品(鉄鎌・刀子)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貢献する。

この山地に開まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間の噴出物である火碎跡石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く、長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷(田切り)を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源冲積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床躍層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した上里端遺跡Ⅱは、北部田切り地形の台地上、標高733m内外の地域に位置する。

第2節 基本層序

佐久市北部地城は、現在の浅間山が形成される以前、2800mを超える火山であった黒斑火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在浅間山の中心を成す前掛山に成長する過程で降下火山灰及び軽石流が大きく2度に渡り堆積した。(下層から佐久市北部地城の第一軽石流・P1、佐久市北端地城の第二軽石流・P2) その厚さは20mを超え、現在はこの堆積した黄褐色土・ロームを表土である黒褐色土が覆っている。本調査区一帯は、資材置き場として利用されており、旧表土(耕作土)上に、約50cm内外の厚みで、埋土が施されている。

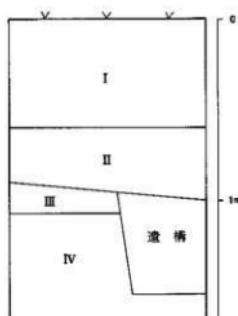
I層は層厚50cm内外を測る埋土である。

II層は層厚20cmを測る黒褐色土の耕作土で旧表土である。完全にすき取られ、存在しない地域も存在する。

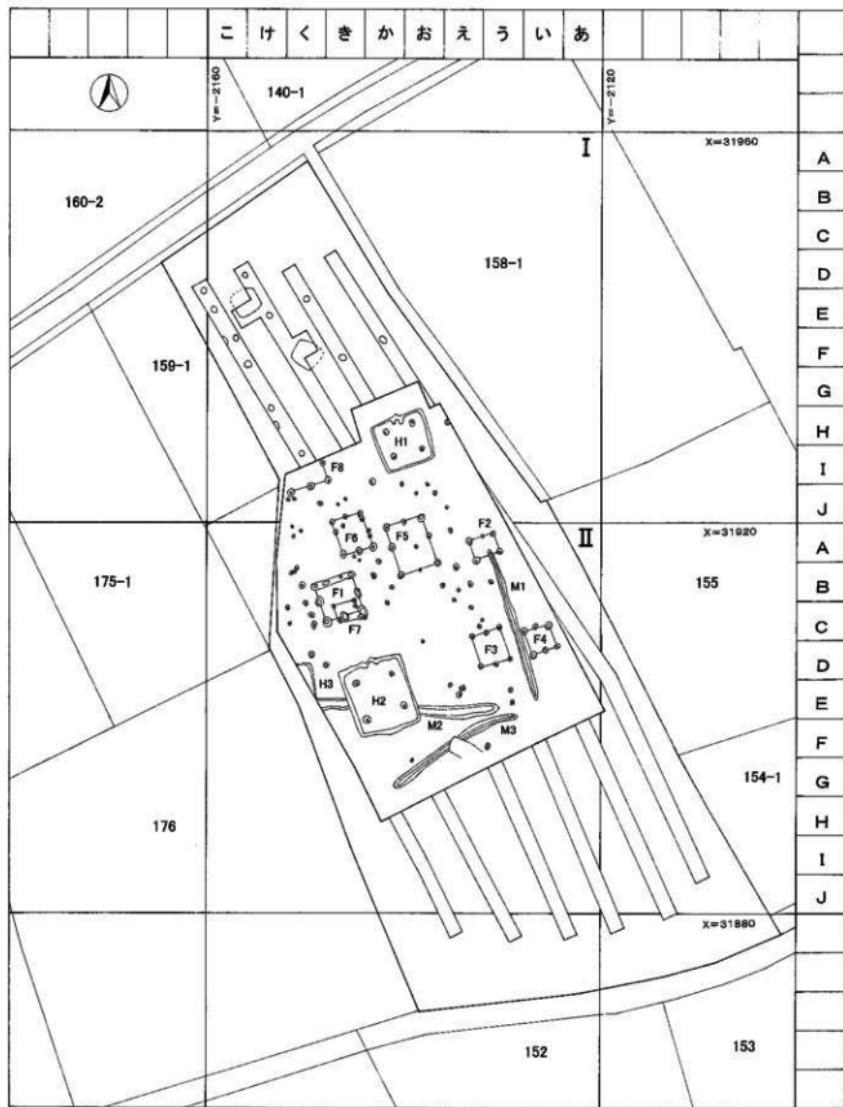
III層は層厚10cm内外の旧表土とローム層の中間に位置する漸位層である。

僅かに遺構の存在が確認できる。

IV層は黄褐色ロームである。明確に遺構の確認ができる。



基本層序模式図

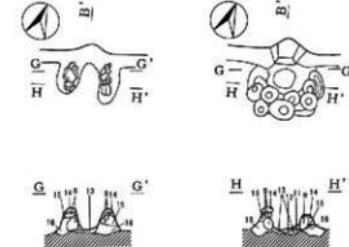
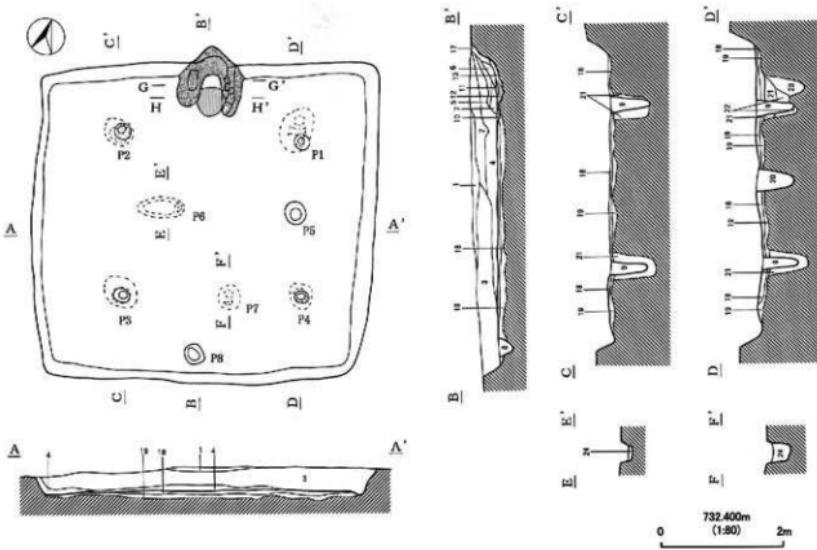


調査構造・試掘トレンチ配置図 (1:500)

第三章 遺構と遺物

第1節 壇穴住居址 (H)

H 1号住居址

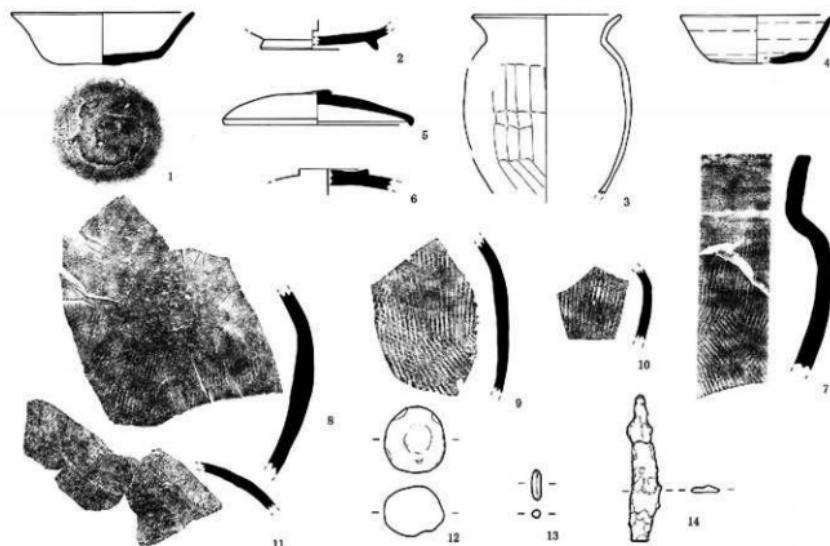


- 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム, 硫石含む。
- にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 粘土ブロック多い, 烧土, ローム, 硫石含む。
- 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム, 硫石多い。
- 暗褐色土層 (10YR2/3) 粘土, 焼土少景, ローム, 硫石含む。
- にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 粘土ブロック, 烧土, 炭化物, ローム, 硫石含む。
- 極暗赤褐色土層 (2.5YR2/3) 焼土, 灰, 烧土, 炭化物含む。
- 黒褐色土層 (5YR2/1) 烧土, 灰, 烧土, 炭化物含む。

- 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム, 硫石含む。しまりなし。
- 黒褐色土層 (10YR2/3) しまりなし。柱痕。
- 暗褐色土層 (5YR2/2) 粘土, ローム, 硫石含む。
- 暗褐色土層 (2.5YR3/6) 烧土含む。
- 明赤褐色土層 (SYR5/6) 焙土層。
- 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 焙土, 炭化物, 灰含む。
- 明褐灰色土層 (7.5YR7/2) 烧土層。
- にぶい暗褐色土層 (7.5YR6/3) 烧土層。
- 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ローム, 硫石, 烧土含む。
- 暗赤褐色土層 (2.5YR3/3) 焙土層。焼土化。
- 黒褐色土層 (10YR2/3) 黑色土, ローム, 硫石の混合土。硬質。
- 暗褐色土層 (10YR3/4) 黑色土, ローム, 硫石の混合土。ややしまりあり。
- 暗褐色土層 (10YR2/4) コーム多い。しまりなし。
- 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームやや多い。硫石含む。
- 褐土層 (10YR4/4) ロームやや多い。硫石含む。
- にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ロームやや多い。硫石含む。
- 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。しまりなし。

H 1号住居址実測図

遺構は調査区北北東のI-か-Hグリッド周辺に位置する。規模は西壁4.5m、東壁4.7m、南壁4.8m、北壁5.1m、確認面から床面までの深さは40cm内外を測る。平面形態は方形である。床面はやや凹凸感のある貼り床が認められ、壁周辺部を除き、硬質である。壁周辺の床面上は軟弱であったが、明確な壁溝とおもわれる掘り込みは確認できなかった。ピットは床面上で6個、掘方で2個が認められた。主柱穴はP1-P4と思われ、床面上では、直径20cm内外の黒色部分のみ軟質で、周辺部の柱穴掘方部分上部には貼り床が存在した。軟弱な黒色部分が柱痕と考えられる。ピットの深さはいずれも70cm内外を測り、しっかりとした掘り込みを持つ。またP8は入口に関するピットである可能性が窺える。カマドは北壁の中央に構築され、石材と白色粘土を多用した両袖が比較的良好な状態で残存していた。カマド中央の火床部分には、直径50cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。遺物は土師器の壺・甕・須恵器の壺・高台付壺・蓋・甕・すり石・みがき石、刀子が出土した。須恵器底部全面にヘラケズリを施す成型方法及び形状、土師器武藏甕頸部「く」の字状形態から、本住居址は7世紀、奈良時代としたい。

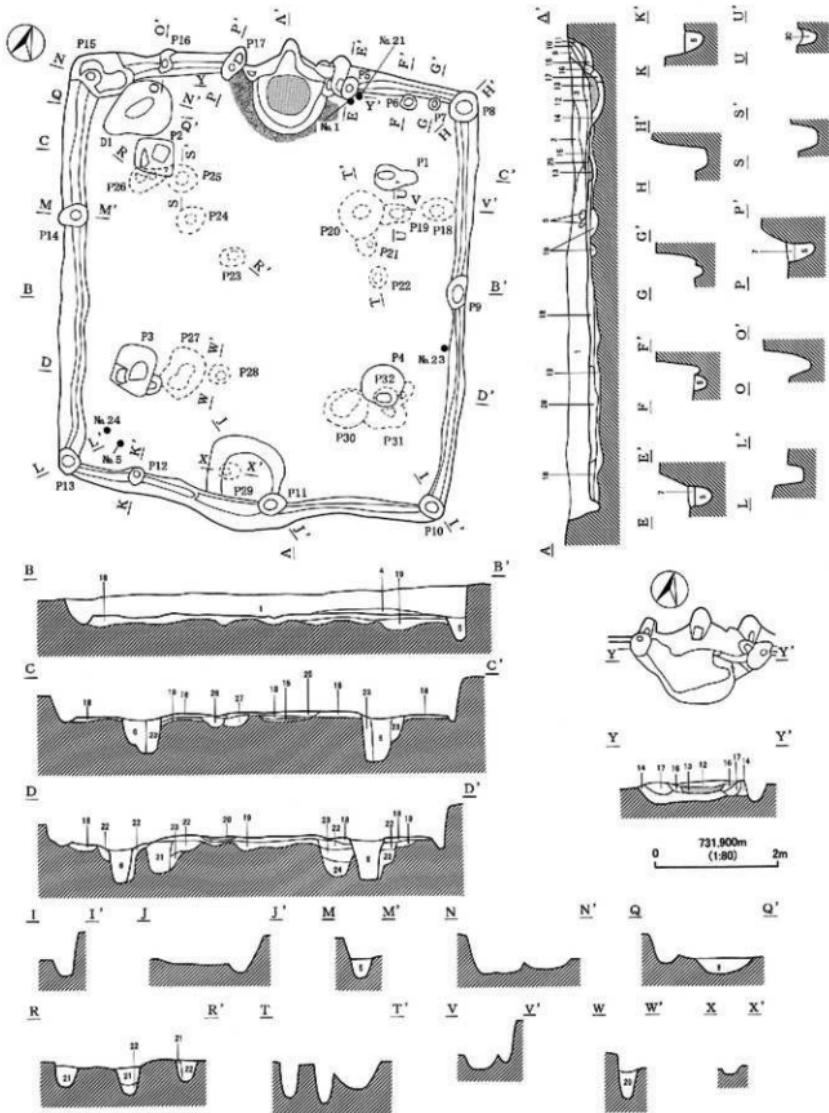


H 1号住居址遺物実測図

番号	種類	目 役	口径cm	高さcm	斜面cm	調 査 大 程	残存中・断面	備 考
1	須恵器	壺	15	83	42	外底リクロナ、瓶底へつた。	30	内底リクロナにあたる場所
2	須恵器	高台付壺	-	26.2	-	瓶底ヘラ削り複数箇所付け。	瓶底 40	外底 27.0付近にあたる場所
3	土師器	小甕	(12.2)	-	(14.8)	口縁、瓶底附近上部裏ナマ、瓶底外側下部底へつり、内面底ヘナダ。	30	外底 23.5付近にあたる場所
4	須恵器	甕	(12.6)	74.0	4	内面裏リクロナ、底部ヘタテナ。	25	内底 22.5付近にあたる場所
5	須恵器	甕	11.2	-	周 9.3	火舟部へつり、つまみ火舟。	10	内底リクロナ付近にあたる場所
6	須恵器	甕	つまみ火舟 15.5	-	-	裏底リマム。	つまみ火舟	内底 10.7付近にあたる場所
7	須恵器	甕	-	-	-	山口内面底ナマ、外底中付近凹痕、内底裏上部底ヘタテナダ。	口縁・側面断面	外底 10.0付近にあたる場所
8	須恵器	甕	-	-	-	外側凹痕、内底底ヘタナダ。	底内・側面断面	外底 10.0付近にあたる場所
9	須恵器	甕	-	-	-	内底平行凹痕、内底ヘタナダ。	側面断面	外底 22.5付近にあたる場所
10	須恵器	甕	-	-	-	外底平行凹痕、内底中心凹痕。	側面断面	外底 20.0付近にあたる場所
11	須恵器	甕	-	-	-	ロココナマ、外底自然堆積。	底部断面	外底 22.5付近にあたる場所
12	すり石	重巻 70g	長さ 5.6	厚さ 0.42	等々 4.1	等々 4.1	等々	等々
13	みがき石	重巻 2 g	長さ 1.5	厚さ 0.07	等々 0.07	等々 0.07	等々	等々
14	地盤石片	重巻 5 g	長さ 1.2	厚さ 0.24	等々 0.26	等々	等々	等々

H 1号住居址遺物観察表

H 2 号住居址

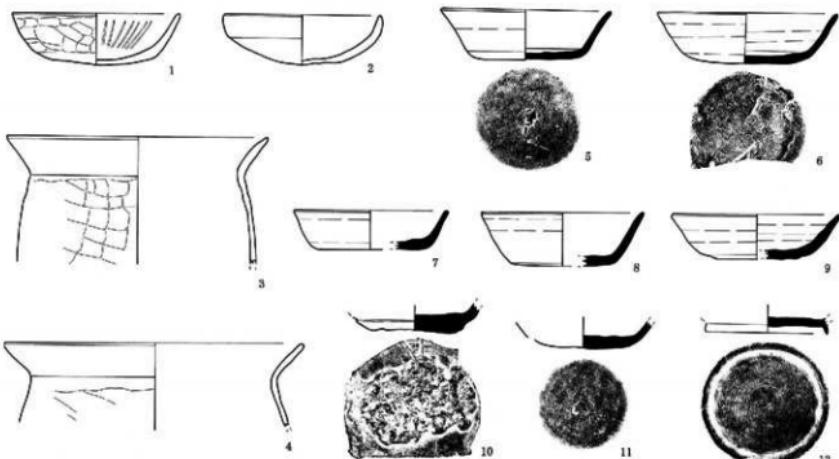


H 2号住居址実測図

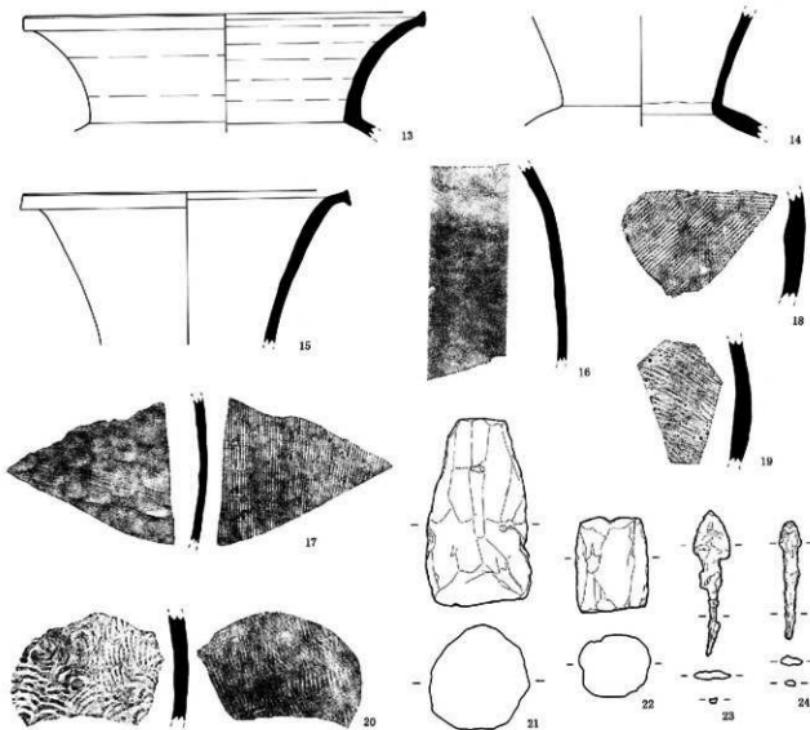
- 1 黒褐色土層(10VR2/3)ローム、軽石、炭化物含む。
 2 にぶい赤褐色土層(2.5YR4/3)粘土、焼土、炭化物多い。
 3 暗褐色土層(5YR2/3)粘土、焼土、炭化物含む。
 4 黒褐色土層(10VR2/2)ローム、軽石、炭化物含む。
 5 黒褐色土層(10YR3/2)ローム多い。しまりなし。
 6 暗褐色土層(10YR3/3)ローム、粘土粒、軽石含む。しまりなし。
 7 暗赤灰色土層(2.5YR3/1)粘土、ローム、軽石含む。
 8 黒褐色土層(5YR2/1)ローム、軽石含む。
 9 明赤褐色土層(2.5YR5/6)燒土層。
 10 暗赤褐色土層(2.5YR3/3)燒土層。粘土粒、灰含む。
 11 赤黒色土層(2.5YR2/1)焼土、粘土粒含む。
 12 にぶい赤褐色土層(2.5YR4/4)燒土層。粘土粒多い。
 13 赤褐色土層(2.5YR4/6)燒土層。(火床)
 14 にぶい赤褐色土層(2.5YR5/4)焼土、灰多い。しまりなし。
 15 黒褐色土層(5YR2/2)焼土、炭化物、灰含む。ややしまりあり。
- 16 にぶい赤褐色土層(2.5YR5/3)焼土、灰、粘土含む。しまりなし。
 17 黒褐色土層(5YR2/2)焼土、灰、粘土含む。しまりなし。
 18 黒褐色土層(10YR2/3)ロームブロック、軽石含む。硬質。
 19 褐色土層(7.5YR4/4)ローム多い。軽石、暗褐色土含む。
 20 にぶい赤褐色土層(2.5YR5/3)粘土層。
 21 黒褐色土層(7.5YR3/2)ローム、軽石、炭化物含む。
 22 褐色土層(7.5YR4/3)ローム、軽石、炭化物含む。
 23 灰褐色土層(7.5YR5/2)ローム主体。
 24 暗褐色土層(7.5YR3/4)ローム、軽石含む。
 25 にぶい赤褐色土層(2.5YR4/3)粘土層。硬質。
 26 灰褐色土層(5YR5/2)ローム、軽石、粘土含む。
 27 灰褐色土層(5YR4/2)ローム、軽石、粘土含む。
 28 楊培褐色土層(7.5YR2/3)ロームブロック、炭化物、焼土含む。
 29 暗褐色土層(7.5YR3/3)ロームブロック、軽石含む。しまりなし。
 30 灰褐色土層(5YR4/2)ローム主体。黑色土、軽石含む。

遺構は調査区の西側、II-き-Eグリッド周辺に位置し、部分的に搅乱の影響を受けて床面が削られている箇所も認められた。規模は西壁6.8m、東壁6.9m、北壁6.4m、南壁6.4m、確認面から床面までの深さは35~65cmを測るやや大型の住居址で、平面形態は方形である。床面は全体に貼り床が施され硬質である。壁周辺には幅20cm、深さ15cm内外の明確な溝が存在する。ピットは床面上で大小18個確認できた。主柱穴はP1~P4と思われる。いずれのピットも直径60cm内外の範囲が軟質であった。また、住居址コーナー、カマド周辺など壁溝内に柱穴と思われるピットが多数存在した。北西コーナーに不整形の落ち込みが認められたが、貯蔵穴と呼べるような状態の掘り込みではなかった。カマドは北壁中央に構築されているが、火床以外の構築物は完全に破壊された状態であった。カマドから住居内に向かって、何かに押し出されたかのように粘土の堆積が拡散していることから、住居が堆積物に覆われる段階で、北から南方向に向かって大きな力が働いたようである。火床には直径70cm、厚さ10cmの焼土が堆積していた。火床の規模から住居址同様、大型のカマドであった様子が窺える。

遺物は土師器の壺・甕、須恵器の壺・高台付壺・甕・蓋、鐵鏃が出土した。須恵器底部全面にヘラケズリを施す成型方法及び形状、薄手の土師器甕頸部「く」の字状形態から7世紀、奈良時代としたい。



II 2号住居址遺物実測図(1)



II号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	形態	寸法mm	直徑mm	厚さmm	測定者	測定者	備考
1	土刀形	片	133	56	42	内側外縁、端部へハサリ、内面横筋斜め入文。	79	外周237.0/4.1 黄褐色
2	土刀形	片	13	4.8	4.2	口端内面端ナギ、内面へク剥り、内面端ナギ・小剥ナギ。	80	外周235.0/6.9 黄褐色
3	土刀形	片	[21]	—	—	口端端ナギ、内面へク剥り、内面端ナギ。	114	内側横片
4	土刀形	片	[24.5]	—	—	口端端ナギ、端部へハサリ、内面へクナギ。	137	内側横片
5	破壊器	片	12.8	2	4.1	内側端クロナギ、端部へク剥り。	85	内周35.8/1.1 黄褐色
6	磨擦器	片	14.5	7.8	4.2	内側端クロナギ、端部へク剥り。	87	内周35.8/1.1 黄褐色
7	磨擦器	片	[12.4]	[8.2]	3.2	内側端クロナギ、端部へク剥り。	39	外周35.8/1.1 黄褐色
8	磨擦器	片	[13.2]	[8.2]	4.2	内側端クロナギ、端部へク剥り。	25	外周237.0/1.1 黄褐色
9	磨擦器	片	[13.4]	[8]	3.7	内側端クロナギ、端部へク剥り。	20	外周237.0/6.6 黄褐色
10	磨擦器	片	—	7.2	—	内側端クロナギ、端部へク剥り、内側斜面端ナギ。	105.40	外周235.0/1.1 黄褐色
11	磨擦器	片	—	7.1	—	内側端クロナギ、端部へク剥り。	105.40	外周235.0/1.1 黄褐色
12	磨擦器	高台付片	—	2.8	—	内側端クロナギ、端部端ナギ。	105.40	外周235.0/1.1 黄褐色
13	磨擦器	片	[20.4]	—	—	内側端クロナギ、端部端ナギ。	105.40	外周235.0/1.1 黄褐色
14	刮削器	片	—	—	—	内側端クロナギ、自然刃打身。	刮削器	外周197.0/2.7 黄褐色
15	刮削器	片	[27.2]	—	—	内側端クロナギ。	117.40	外周197.0/2.7 黄褐色
16	刮削器	片	—	—	—	内側ナギ、内面へリナギ。	刮削器	外周197.0/1 黄褐色
17	刮削器	片	—	—	—	内側端平行刃片、内面へクナギ。	刮削器	外周197.0/1 黄褐色

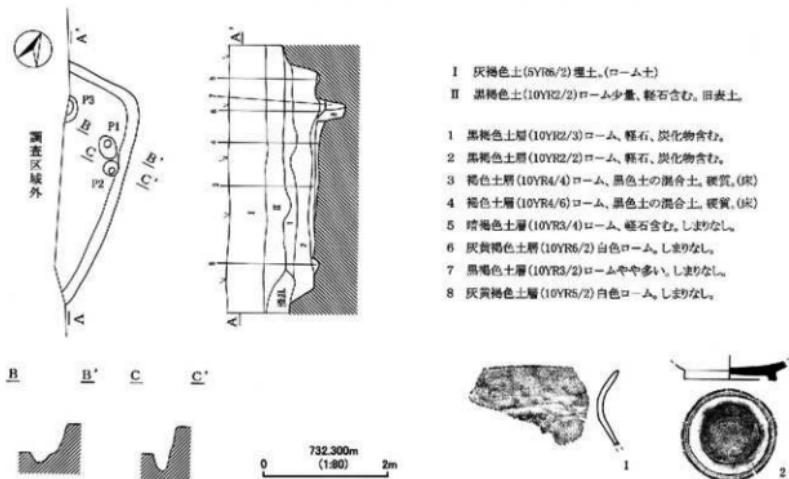
H号住居址遺物観察表(1)

番号	鉢	盃	D10cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存度・部位	寸法
18	灰褐色	無	-	-	-	陶器や打跡、内底ナマ。	堅留成片	外周225.4cm内周160cm
19	深灰色	無	-	-	-	陶器や打跡、内底ナマ。	堅留成片	外周235.3cm内周160cm
20	深灰色	無	-	-	-	陶器や打跡、内底は泥付、内底に凹凸付。	堅留な片	外周235.7cm内周160cm
21	堅留灰陶	素目155g	底径18	底径6	先端付	陶器、瓦質。	堅留成片	外周225.4cm内周160cm
22	堅留灰瓦陶	束口169g	底径15.3	底径5.5	先端付	陶器、瓦質。	堅留成片	外周235.3cm内周160cm
23	筒形	束口21g	底径12.3	口径11	厚壁6.5	鉢付。	筒形	外周235.3cm内周160cm
24	筒形	直口17g	底径10	口径10	厚壁6.5	鉢付。	筒形	外周235.3cm内周160cm

II 2号住居址遺物観察表(2)

H 3号住居址

遺構は調査区西端、II-く-Eグリッドに位置し、西側の大半は調査区域外となる。調査範囲は北東コ-ナ-付近の一部である。調査規模は、北壁1.1m、東壁3.2m、確認面から床面までの深さは40cm内外を測る。床面は壁際を除き貼り床が施され、硬質である。ピットは床面上で3個確認でき、P3が主柱穴の一つと考えられる。壁溝、カマドは確認できなかった。遺物は土師器の壺・甕、須恵器の壺・高台付壺・甕が出土した。土師器甕の頸部が「コ」の字になる前段階であることから7世紀、奈良時代としたい。



番号	鉢	盃	D10cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存度・部位	寸法
1	灰褐色	無	-	-	-	口縁擴アラ。	口縁擴片	外周225.4cm内周160cm
2	紅褐色	丸穴付	-	7.4	10	底部の柱立柱付り裏面は赤土目付。 外側に穴あいていて裏面は赤土目付。	底付・瓶器	外周235.3cm内周160cm

II 3号住居址遺物観察表

第2節 掘立柱建物址(F)

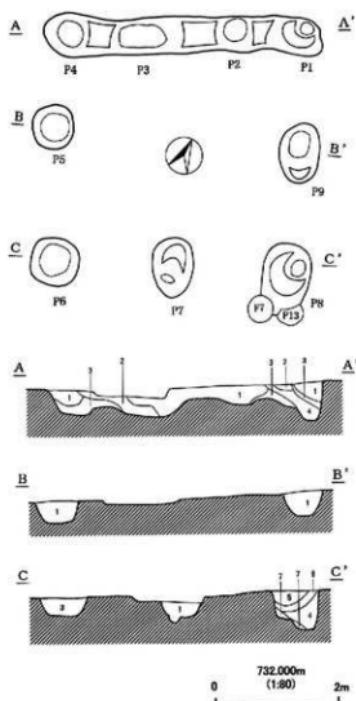
F 1号掘立柱建物址

遺構はII-き-Cグリッド周辺に位置し、F7を切る。確認できたピットは、西側2間、東側2間、北側は溝持ちで3間、南側2間の9個が認められた。全体の規模は、東西4.0m、南北3.9m、ピットの形状は円形または梢円形で、径0.6~1.2m、深さ30~65cmを測る。柱に囲まれた内側にピットが認められなかったことから側柱の掘立柱建物址と考えられる。

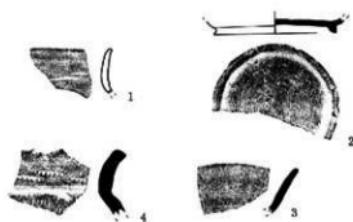
F 2号掘立柱建物址

遺構はII-う-Aグリッド周辺に位置する。確認できたピットは5個で、北側2間、南及び東西は1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西2.6m、南北2.0mである。ピットの形状は、北側中央部のピットがやや方形である他は円形で、径28~60cm、深さ20~40cmを測る。

F 1号掘立柱建物址

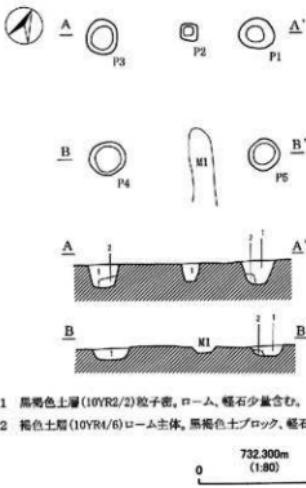


- 1 黑褐色土層(10YR2/2)蛭石、ローム含む。粒子密。
- 2 棕色土層(10YR4/6)ロームブロック主体。
- 3 喀褐色土層(10YR3/4)ローム、蛭石やや多い。
- 4 黑褐色土層(10YR2/3)ローム、蛭石少量含む。
- 5 喀褐色土層(10YR3/4)ローム、蛭石多い。
- 6 棕色土層(10YR4/6)ローム主体。黒褐色土、蛭石含む。
- 7 黄褐色土層(10YR5/6)ローム主体。黒褐色土含む。



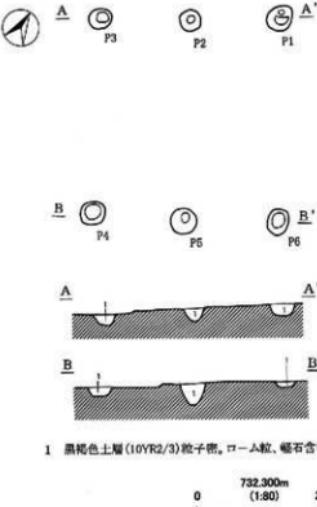
F 1号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

F 2号掘立柱建物址



F 2号掘立柱建物址実測図

F 3号掘立柱建物址



F 3号掘立柱建物址実測図

F 3号掘立柱建物址

遺構はII-う-Dグリッド周辺に位置する。確認できたピットは6個で、東西2間、南北1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西3.0m、南北3.4mである。ピットの形状は円形で、径35~42cm、深さ10~35cmを測る。

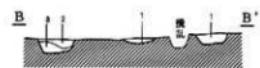
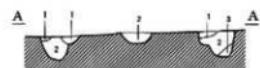
F 4号掘立柱建物址

遺構はII-い-Cグリッド周辺に位置し一部擾乱に破壊される。確認できたピットは6個で、東西2間、南北1間の側柱と考えられる。全体の規模は東西2.6m、南北2.6mである。ピットの形状は円形で、径50~70cm、深さ10~45cmを測る。

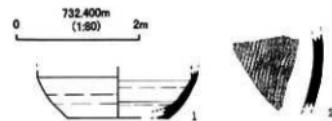
F 5号掘立柱建物址

遺構はII-お-Aグリッド周辺に位置する。確認できたピットは8個で、東西2間、南北2間の側柱と考えられる。全体の規模は東西3.8m、南北5.0mである。ピットの形状はP2・6が方形に近い他は、ほぼ円形であり、ピットの規模は、径25~75cm、深さ10~40cmを測る。

F 4号掘立柱建物址



- 暗褐色土層(10YR3/3)ローム、黒褐色土、軽石含む。
- 黒褐色土層(10YR2/2)粒子密。ローム、軽石少含む。
- 暗褐色土層(10YR3/3)ローム、軽石含む。

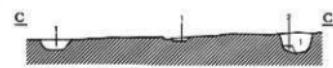
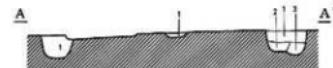


F 4号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

F 6号掘立柱建物址

遺構はII-き-Aグリッド周辺に位置する。確認できたピットは10個であるが、P4、8、9、10は伴うか断定できない。規模は東西3.2m、南北3.8mである。ピットの形状は円形で、規模は小ピットも含めると、径35~75cm、深さ20~50cmを測る。

F 5号掘立柱建物址

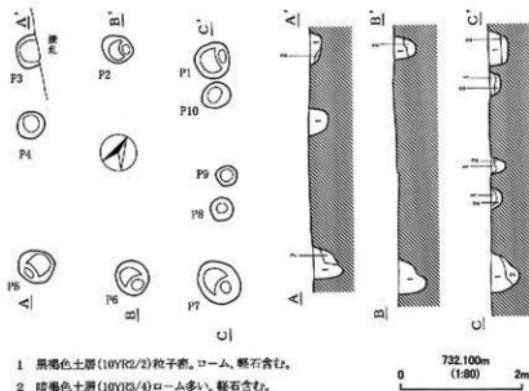


0 732.200m 2m
(1:80)

- 黒褐色土層(10YR2/2)粒子密。ローム、軽石含む。
- 暗褐色土層(10YR3/3)ローム、軽石含む。
- に近い黄褐色土層(10YR4/3)ローム主体。暗褐色土、軽石含む。

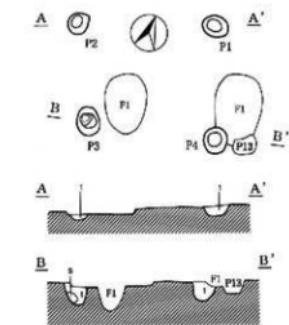
F 5号掘立柱建物址実測図

F 6号掘立柱建物址



F 6号掘立柱建物址実測図

F 7号掘立柱建物址



1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石少量含む。



F 7号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

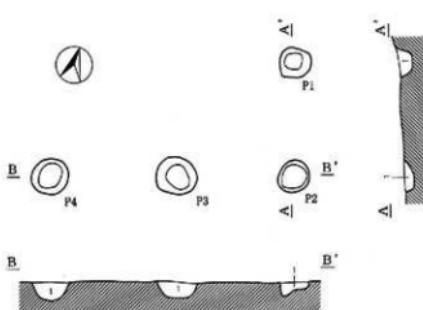
F 7号掘立柱建物址

遺構はII-き-Cグリッド周辺に位置し、F1に切られる。確認できたピットは4個で、1×1間の側柱と考えられる。規模は南北1.8m、東西2.1mである。ピットの形状は円形で、径25cm内外、深さ12~32cmを測る。

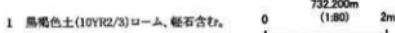
F 8号掘立柱建物址

遺構はI-く-Jグリッド周辺に位置する。確認できたピットは南北1間、東西2間の4個である。確認状況から、遺構は北に広がると考えられる。調査規模は南北1.8m、東西4.0mである。ピットの形状はほぼ円形で直径50~68cm、深さ16~32cmを測る。

F 8号掘立柱建物址



1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム、軽石含む。



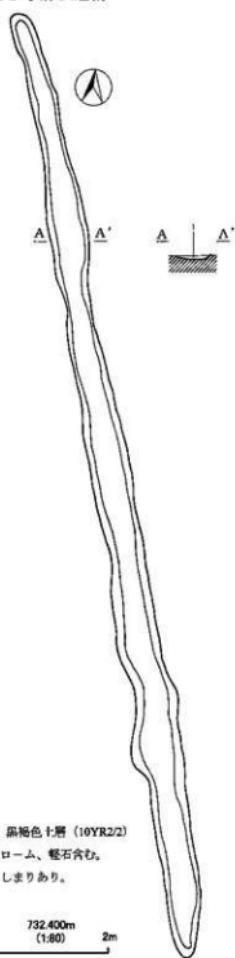
F 8号掘立柱建物址実測図

番号	基準	目次	山積m	横積m	鉛込m	測定・文様	発見地・部位	備考
F1.1	土耕層	無	-	-	-	口縁模ナメ。	口縁模	特徴23YR4/4に近い茶色
F1.2	黒褐色土	無	-	15	-	250mmへ向う後高石付け。	先端40	特徴23YR5/4褐色
F1.3	黒褐色土	無	-	-	-	壁下付ナメ。	口縁模	特徴23YR5/4褐色
F1.4	黒褐色土	無	-	-	-	二輪模ナメ。口縁模付。	口縁模-15頭模	外縁23YR4/4に近い茶色
F1.5	黒褐色土	無	-	(3a)	-	ロクナメ。造形ヘタ異常。	造形-15頭模	内縁35YR7/3灰白色
F1.6	黒褐色土	無	-	-	-	両面平均厚さ、凹凸ナメ。	頭模模	外縁35YR7/3灰白色
F1.7	黒褐色土	無	-	-	-	外縁15mmに凹凸、内縁ナメ。	頭模模	内縁23YR7/3灰白色

掘立柱建物址遺物観察表

第3節 溝状造構 (M)

M 1号溝状造構

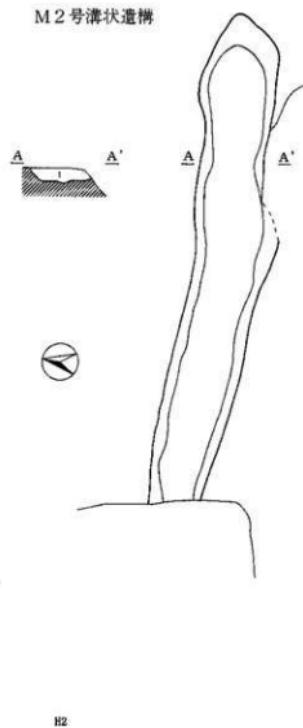


M 1号溝状造構実測図



M 2号溝状造構 道構・遺物実測図

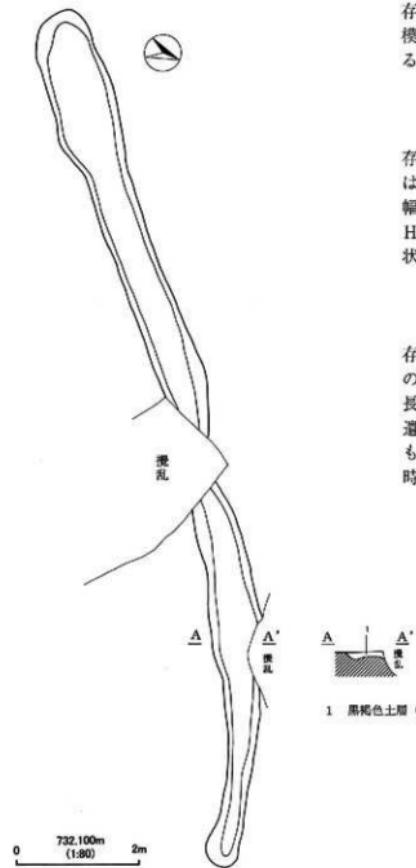
M 2号溝状造構



1 黒褐色土層 (10YR2/2)
ローム、整石含む。

0 732.100m (1:80) 2m

M3号溝状遺構



M1号溝状遺構

遺構はII-う-EからII-い-Eグリッドにかけて存在し、北から南に向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ15.6m、幅0.35~0.8m、深さは10~30cmを測る。

M2号溝状遺構

遺構はII-う-EからII-き-Eグリッドにかけて存在し、東から西に向かって緩やかに傾斜する。西側は調査区域外に続く。規模は調査規模で、長さ18m、幅0.9~1.4m、深さ30cmを測る。時期は、奈良時代のH2号住居址に切られることから、奈良時代以前の溝状遺構と考えられる。

M3号溝状遺構

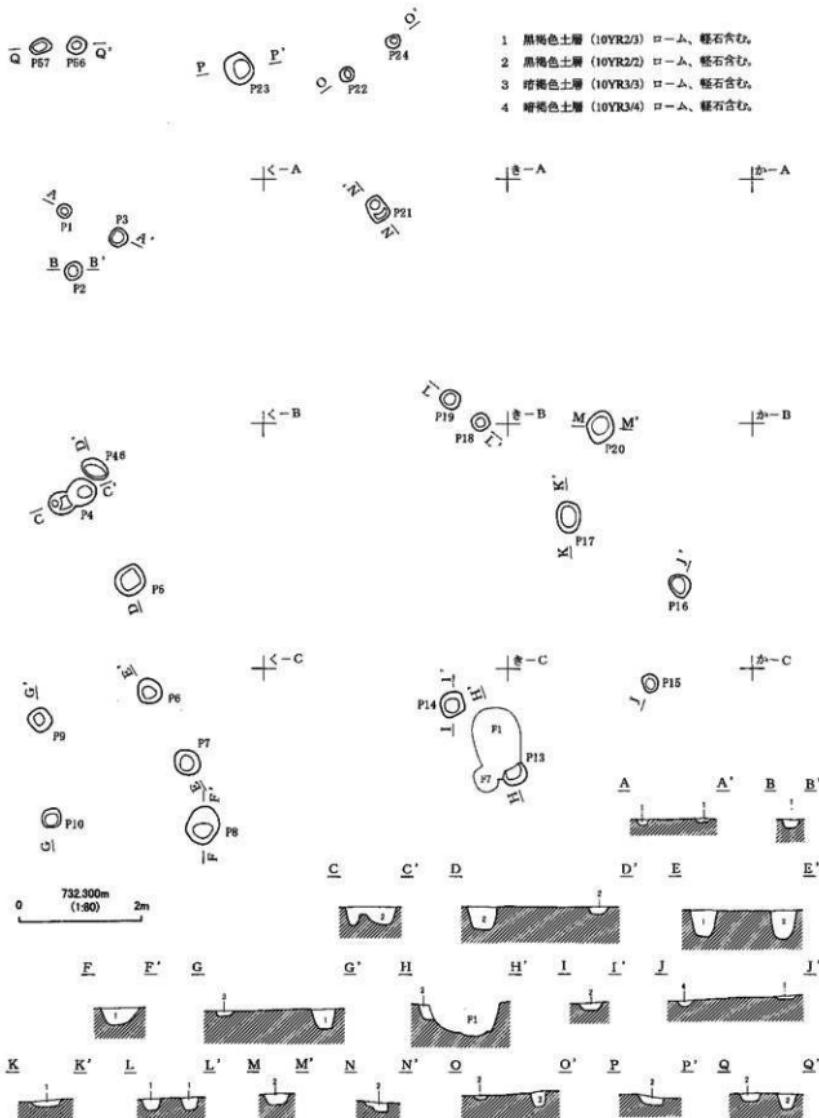
遺構はII-う-EからII-か-Gグリッドにかけて存在し、東から西に向かって緩やかに傾斜する。遺構の一部は近年の擾乱によって破壊されている。規模は長さ14.5m、幅0.4~1.1m、深さ10~30cmを測る。本遺構は、M2が、II-う-Eグリッド付近で分岐したものと思われることから、時期はM2と同時期の奈良時代以前と考えられる。

M3号溝状遺構・遺構・遺物実測図

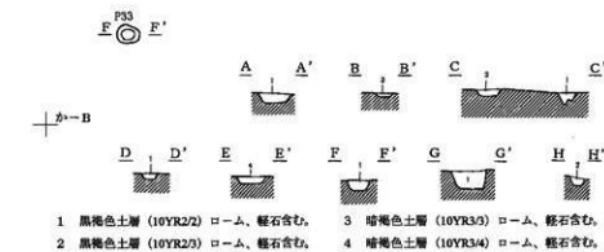
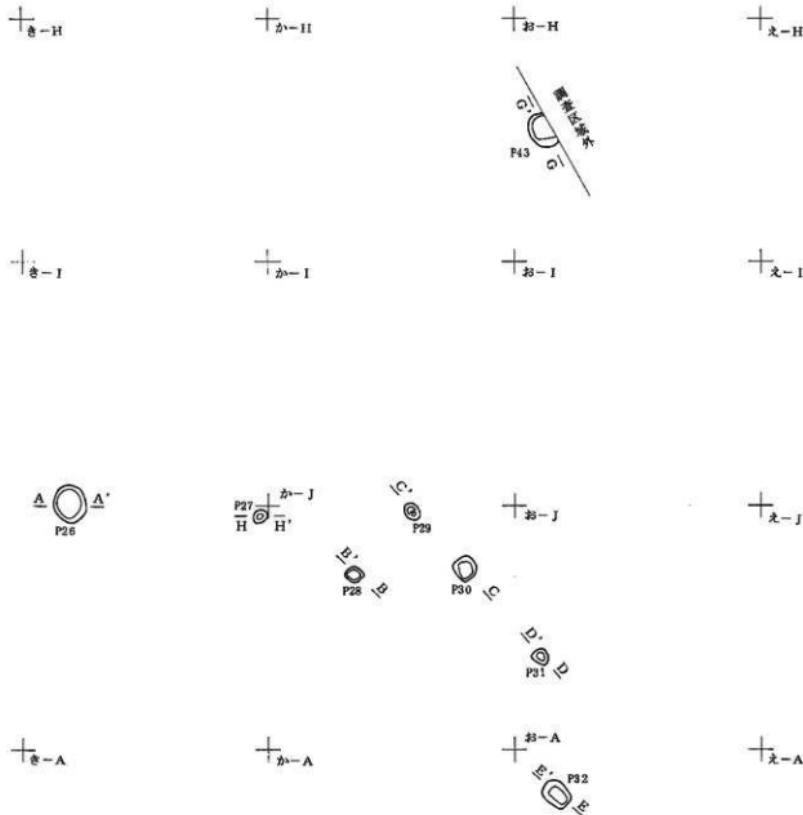
番号	部 無	部 無	口幅m	底幅m	高さm	調 查 文 稿	地圖番・地図	名 呼
M31	土耕層	無	-	-	-	口縁後テラ、口縁外後壁ミオキ、NDIと同一供給の可能性あり。	二段縁片	外周 10YR3/1 黒色
M32	土耕層	無	-	-	-	後削ミオキ、内壁ナシ、NDIと同一供給の可能性あり。	深縁片	外周 10YR3/1 黑色
M33	土耕層	無	-	-	-	内壁後壁かへ繋び立行跡、内面風紋跡。	深縁片	外周 10YR3/1 黑色
M34	1段階	無	-	-	-	口縁クリア。	口縁一筋縁片	外周 10YR3/1 黑色
M32	土耕層	無	-	-	-	内面半斜、内壁ヘナダ。	深縁片	外周 10YR3/2 黑褐色

溝状遺構遺物観察表

第4節 ピット (P)



ピット実測図 (1)



ピット実測図 (2)

\triangleleft ○ P11

○ \triangleleft P12

\triangleleft E +

き - E +

か - E +

\triangleleft F +

き - F +

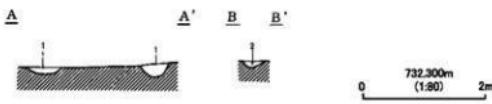
か - F +

\triangleleft G +

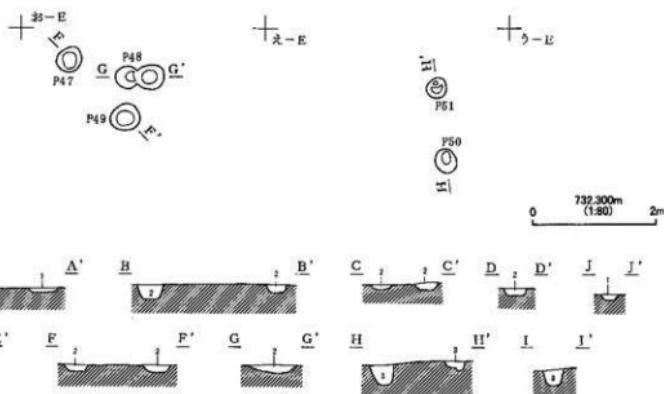
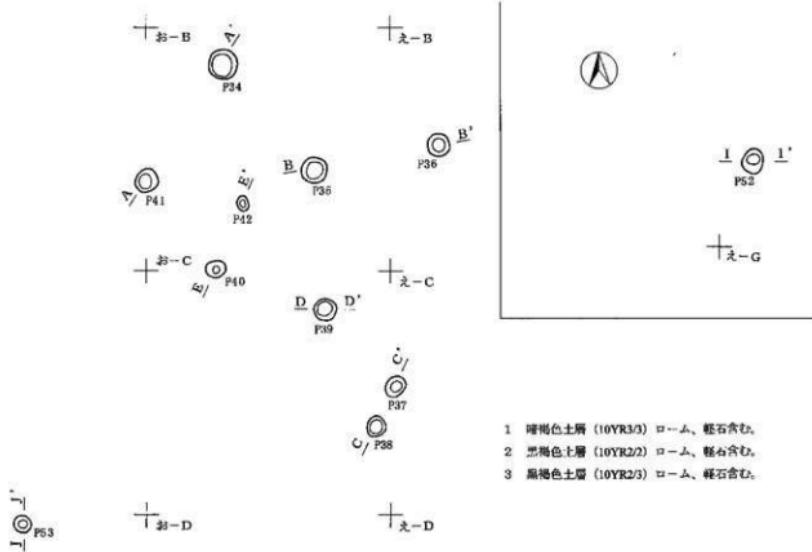
き - G +

か - G +

○ P54
△ P54



ピット実測図 (3)



ピット実測図 (4)



長土呂遺跡群 上型端遺跡II調査区全景（南から）



調査区全景（北から）



調査風景（南から）



調査区近景（南から）



調査風景（北から）



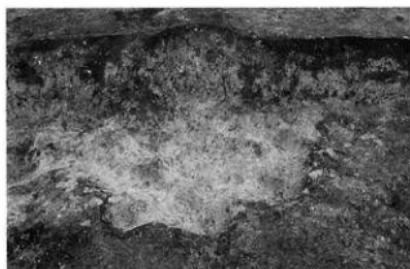
H 1号住居址全景（南から）



H 1号住居址カマド（南から）



H 1号住居址カマド石材使用状況



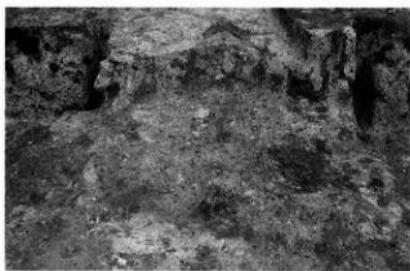
H 1号住居址カマド掘方（南から）



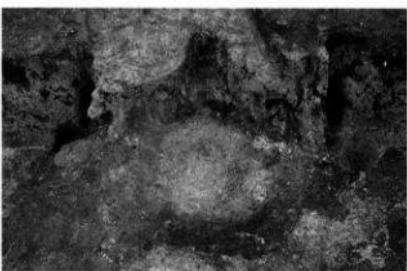
H 1号住居址掘方（南から）



H2号住居址全景（南から）



H2号住居址カマド（南から）



H2号住居址カマド火床（南から）



H2号住居址カマド掘方（南から）



H2号住居址掘方（東から）



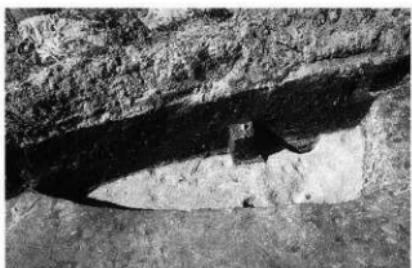
H2号住居址遺物出土状況



H2号住居址支脚石出土状況



H3号住居址全景（東から）



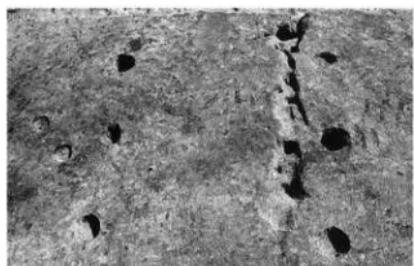
H3号住居址掘方（東から）



F1号掘立柱建物址（南から）



F2号掘立柱建物址（南から）



F3号掘立柱建物址（西から）



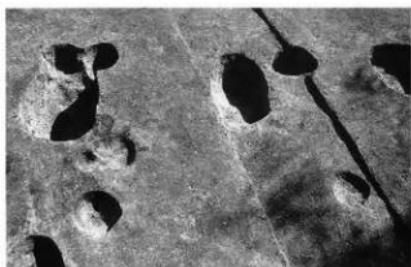
F4号掘立柱建物址（西から）



F 5号掘立柱建物址（西から）



F 6号掘立柱建物址（南から）



F 7号掘立柱建物址（北から）



F 8号掘立柱建物址（西から）



M 1号溝状遣構（南から）



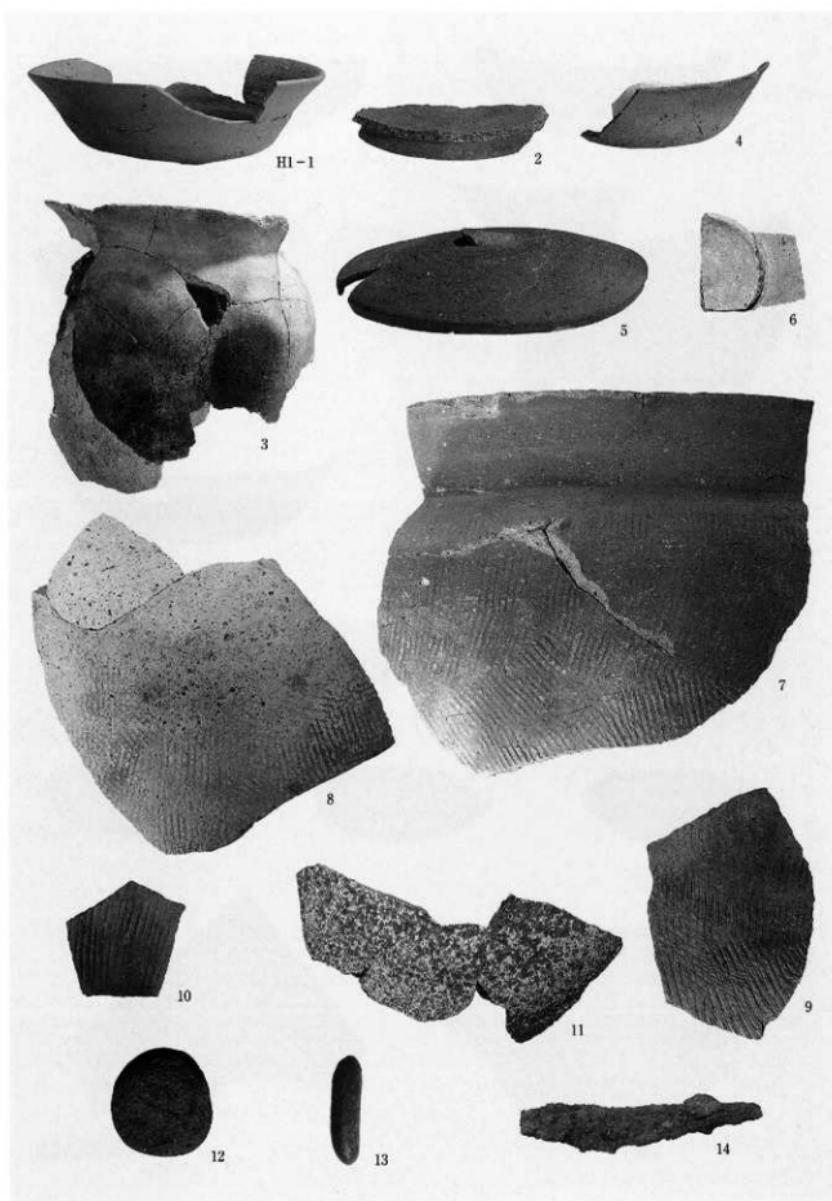
M 2・3号溝状遣構（東から）



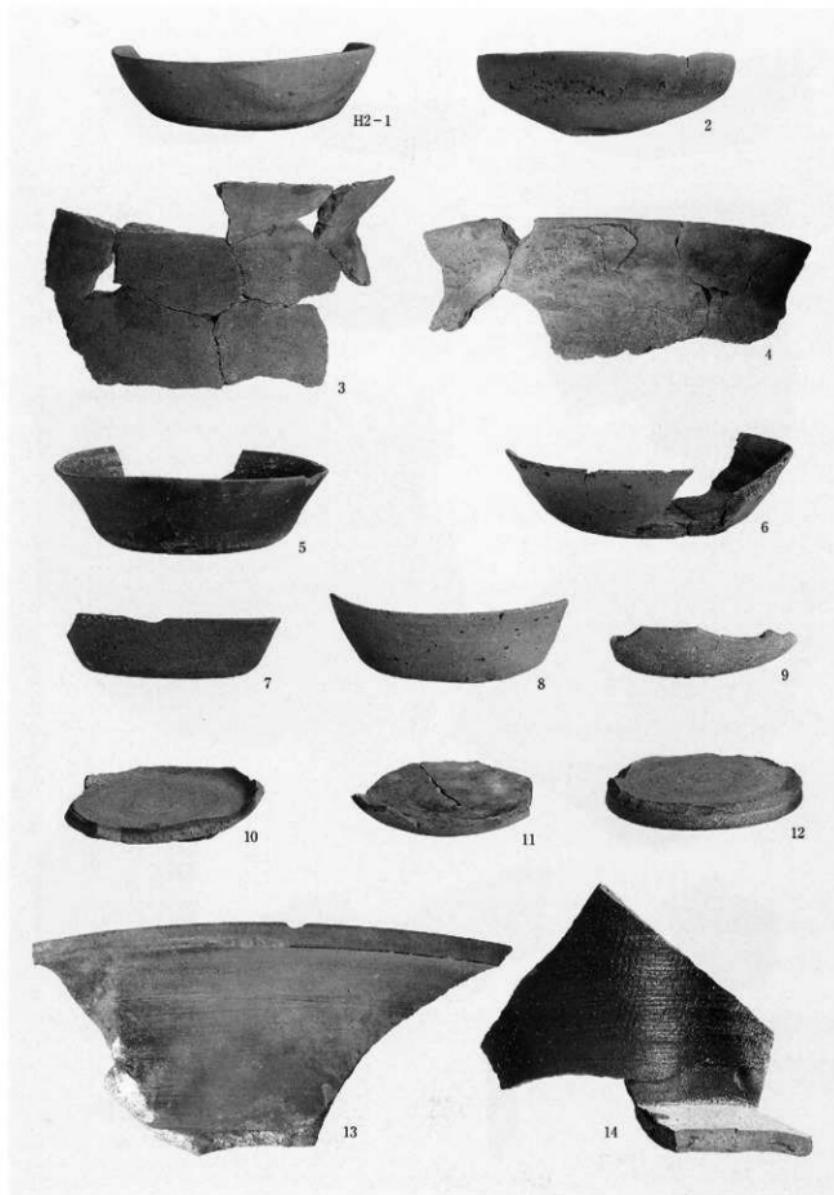
表土除去作業風景



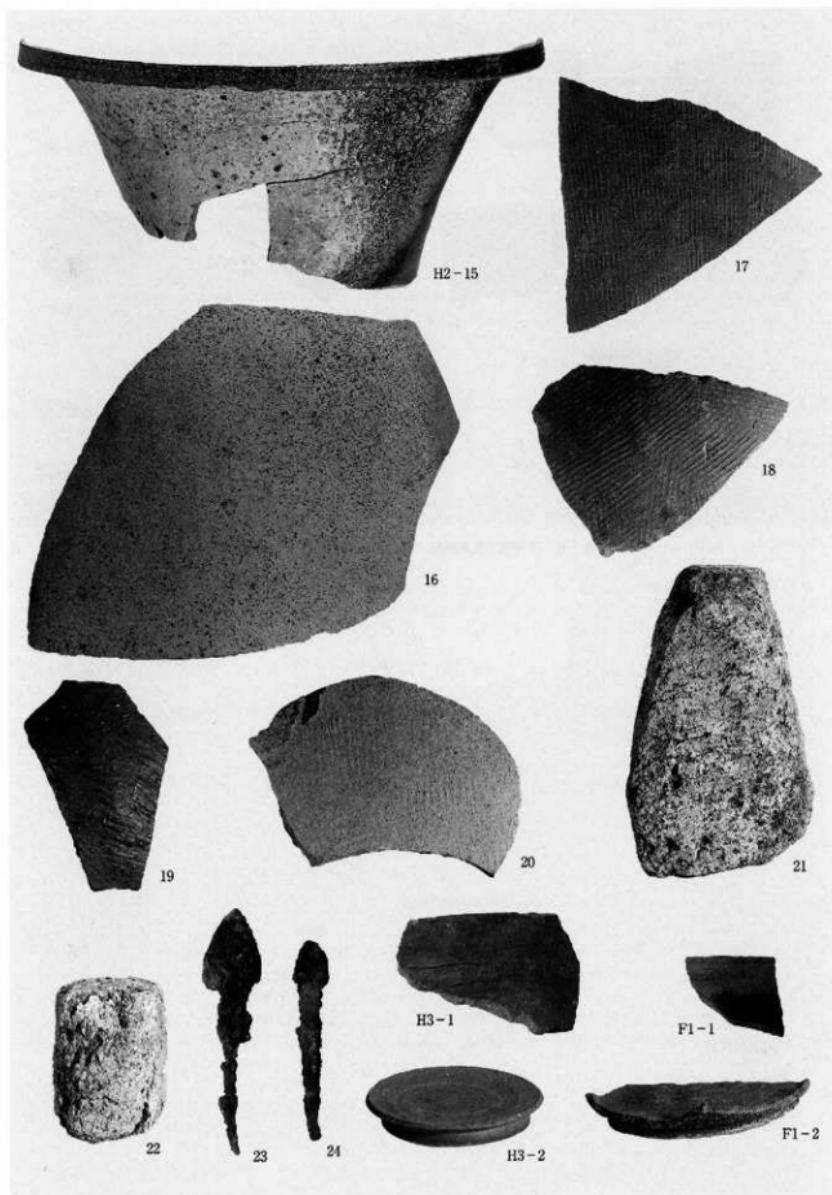
基準杭設定作業風景



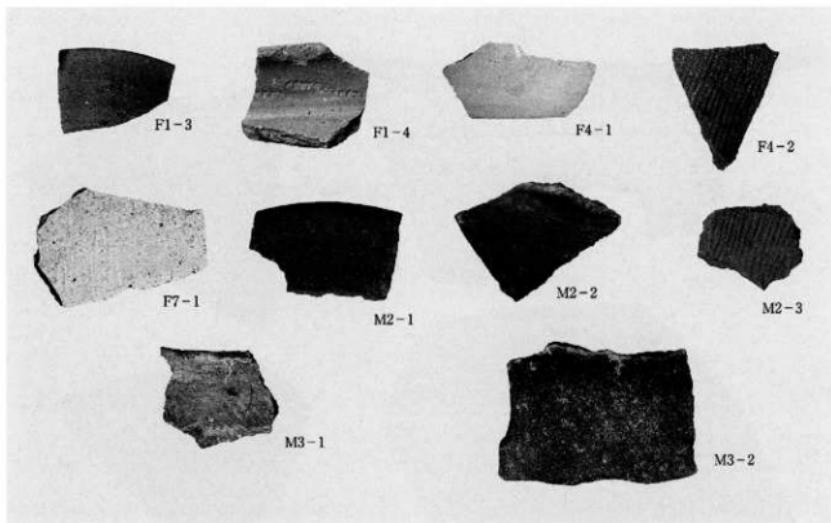
H1号住居址出土遺物（No13のみ縮尺が異なる）



H 2 号住居址出土遺物



H 2 · 3 号住居址、F 1 号掘立柱建物址出土遺物



F 1 · 4 · 7 号掘立柱建物址、M 2 · 3 号溝状遺構出土遺物

ふりがな	ながとろいせきぐん かみひじりばたいせきに						
書名	長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ						
副書名	-						
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第211集						
編著者名	上原 学						
編集機関	佐久市教育委員会文化財課						
所在地	長野県佐久市志賀 5953 Tel 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323						
発行年月日	平成24年12月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	発掘期間	発掘面積m ²	発掘原因
ながとろいせき ぐんかみひじり ばたいせきに	さくし ながとろ	20217	9	36° 17' 15"	138° 28' 35" ~ 20110912 20110930	869	本社及び福 祉用具メン テナンス物 流センター 建設
長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ	佐久市 長土呂 159-1, 159- 2, 159-3						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ	集落	奈良時代	竪穴住居址3、掘立柱 建物址8、溝状遺構3、 ピット	土師器、須恵器、石製品、 鉄製品	奈良時代の住居址等を 中心とした集落跡が発 見された。		
要約	佐久地域特有の浅間山麓から放射状に延びる細長い田切り地形の台地上に展開する遺跡である。今回の調査対象地からは、奈良時代の住居址3軒及び奈良時代の遺物を伴う掘立柱建物址8棟が発見され、ほぼ単独の時代構成であった。しかし、同一台地上のほぼ隣接する北東には古墳時代から平安時代の住居址90軒が調査された聖原遺跡が所在していることから、上聖端遺跡周辺地域では、古墳時代から平安時代にかけて大規模な集落が継続して形成されていたことが想定される。						

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第211集

長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ

2012年12月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953

Tel 0267-68-7321

印刷所 白田活版株式会社

〒384-0301 長野県佐久市白田 2016

Tel 0267-82-2109

